

『桃山学院大学学生論集』第21号の刊行にあたって

学長 松 浦 道 夫

入選者の皆さんおめでとう。

本年度は60編の応募でした。昨年より少しダウンしたようですが、ほぼ例年並と聞いています。優秀作は1編ですが佳作は7編に増えています。ここはレベルアップしたといえるでしょう。

さて、この論集に掲載されるそれぞれのテーマは多様性にとんでいます。経済経営、社会、国際、地域、人間の問題と桃山の特徴が良く出ています。学部の特徴と言い換えればよいでしょう。そして論文作成のベースはやはりゼミにあることが良くわかります。担当の先生のご指導と学生自身の努力の賜物です。入選者の多くは進路を決める年度になっています。特に就職活動で忙しく心理的に不安定な状況に追い込まれています。それらを克服して論文作成に取り組み、ゼミの学習を続けられた応募者の皆さんに敬意を表します。残念ながら入選されなかった皆さんもそれぞれに大きな成果が合ったことと思います。ですから大学本来の教育は、今もなおゼミにあると思います。皆さんのこの姿勢が全学に良い影響を与えてくれるでしょう。

ところで、今年度もシンクロナイズドスイミングの国際大会で、サッカー、ボクシングの学生選手権大会で桃山は活躍しました。国際交流もさらに活発になり協定校は33に増えました。また地域連携、ボランティア、大学コンソーシアムでの活躍は一層拡大しました。新年度には経済学部の中国ビジネスキャリアコース、経営学部大学院に日中連携ビジネスコースが開設されます。加えて、2008年4月には中学校が再開されます。このように桃山は変化発展しています。私学は多様性こそが命ですが、その中でゼミ活動、特に論文作成は大切です。皆さんも桃山とともに変化成長されるでしょう。

この掲載される論文は学生生活の集大成であり、記念であります。人は一

つのことを成し遂げれば、自然と次の目標ができ、新たな意欲が湧いてきます。きっと皆さんは達成感と連帯感を覚え、感動を味わったことでしょう。

第21号の刊行は、審査委員の先生方のご苦勞と各所管の担当職員の方々のご支援の賜物と学生とともに感謝いたします。